

第19回日本言語聴覚学会出展レポート

協議会では、今年度、5年ぶりに言語聴覚学会へ出展いたしました。言語聴覚士（ST）とは、言語や聴覚、音声、認知、発達、摂食・嚥下に関わる障害に対して、その発現メカニズムを明らかにし、検査と評価を実施し、必要に応じて訓練や指導、支援などを行う専門職と定義されておりますが、ことばやきこえの障害、声や発音の障害の他、定義にある通り、食べる機能の障害についても指導的立場にあることから、我々の扱う介護食品とも非常にかかわりの深い職種となっております。

今回の出展では、会員企業2社（日東ベスト(株)、マルハニチロ(株)）との共同出展を行いました。出展内容としては、各社によるUDF（ユニバーサルデザインフード）の試食提供を中心に、資料・サンプリング、アンケート調査等を実施しました。ST学会でアンケートを行ったのは初めてでしたが、STが対象者の食事形態の決定にどのように関わっているかについて調査を行い、今後の啓発の方向性を探ることを意図しました。

以下、今回の調査結果をいくつかご紹介します。

まず、回答者属性については、栄養士などの関連職種の来場も若干あるものかと考えておりましたが、すべてがSTでした。

Q. UDFとは何かご存知ですか？

UDFの認知率について聴いてみたところ、「知っている」63%、「名前だけは知っている」26%で計89%と、STの間でもUDFの認知率は高いことが分かりました。

Q. 今まで職場でUDFのマークのついた製品を使用しましたことがありますか？

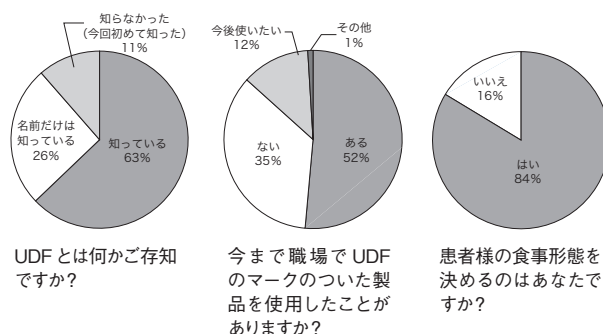
これについては、52%が「ある」と回答しており、STが食事と深いかかわりがあることが伺えます。

Q. 患者様の食事形態を決めるのはあなたですか？

この質問については、84%が「はい」と回答しており、摂食嚥下の指導について医師、栄養士、看護師など多職種での医療連携がある中で、上記の問いを裏付けるようにSTが重要な立場にあることが

分かります。

協議会では、これらの結果を参考に一層ユニバーサルデザインフードの普及を進めてまいります。



【会議、催事等の予定】

9月8日(土)～9日(日) 第24回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会(仙台市)

9月10日(月) 第2回UDF選び方WG(本会会議室)

9月10日(月) 第1回認知向上WG(本会会議室)

9月28日(金) 第3回技術委員会(オリンピック神田会議室)

【UDF商品登録状況(2,059品目・7月末現在)】

	区分1	区分2	区分3	区分4	とろみ調整	合計
乾燥食品	0	4	12	0	88	104
冷凍食品	303	250	719	30	0	1,302
常温食品	161	156	214	121	1	653
合計	464	410	945	151	89	2,059

【会員の異動(7月)】

新規加入1社：三菱ケミカル(株)

計77社(7月末現在)。

◎日本介護食品協議会では会員企業を募集しています。協議会とユニバーサルデザインフードについては事務局までご連絡ください。

事務局：東京都千代田区神田東松下町10-2

翔和神田ビル3階

TEL 03-5256-4804

FAX 03-5256-4805

<http://www.udf.jp/>